

広  
報

# 135

No. 12  
2004年10月

特集

「正しい日本語って何だろう?」

ことばは変化するもの、  
バリ千ションを  
おもしろがろう。

おかげさまで創刊1周年を迎えました



地域とともに

気になる「正しい日本語」とは?

「最近の日本語は乱れている」という意見は、以前からよく言われています。伝統的な語法が間違っていて使われたり、聞きなれないことばが若者たちの間ではやると人々は、日本語が乱れていると口にしてきたのではないのでしょうか。では何が正しい日本語か?と問われても日本語には方言があり、難しい尊敬語や慣用語、流行語、外来語などさまざまなことばが話され、何が正しいのかを明確に答えられないのも事実です。

とはいえ、気になるときは使い方というものがあります。文化庁の平成14年度の「国語に関する世論調査」によると、「お会計のほう、1万円になります」という言い方が気になる」と答えた人は50.4%、平成8年度は32.4%、千円からお預かりします」という言い方が気になる」と答えた人は45.2%、平成8年度は38.4%と、6年前の調査に比べていずれも気になる割合が増加。若者はあまり気にならないようですが、中高年では違和感を感じる人も多いのではないだろうか。

「ことばの乱れは、世の乱れ」と嘆く人もいれば、「ことばは生き物だから、時代とともに変わる」というクールな見方をされる人もいます。そこで今回は、正しい日本語とは何か、時代によって日本語は変わりゆくものなのか、日本語について考えたいと思います。

特集

正しい日本語って何だろう？

# ことばは変化するもの、 バリエーションを おもしるべし。

「から」抜きことばやカタカナ語の氾濫、アクセントの平板化など、日本語が乱れていると言われています。このままだと正しい日本語が失われてしまつと心配する声もあります。しかし、本当に日本語は乱れているのでしょうか。正しい日本語とはいったい何なのでしょうか。変わりゆく日本語の現状について、人文学部の野田春美教授とともに見つけてみました。

自分が習ったことばが正しいと思いがち

「一般に正しい日本語と考えられているのは共通語、標準語です。これは全国どこでも通じることばとして作られたもので、実際は、日本語には歴史的变化や地域などに沿ったバリエーションがあります。」  
「ひとつを正しいと決めることは他が間違っているということになり、非常に難しい問題です」と野田教授は話します。  
では日本語の乱れとは何を基準にしていのでしょうか。  
「人間とことばの関係は保守的で、自分が習ったことを正しいと信じていた

ことばの変化を知り、  
どう使うかを考える

です。ところがことばは生き物で変化します。たとえば『全然おいしい』は間違いとされています。昔は肯定文でも使われていて、それで良かったんですよ。言っても、学校で習ったから否定で使うのが正しいと信じている人は、肯定で使うことを認めにくいんです。」  
乱れの代表格とされる「から」抜きことばは言語学者や日本語学者のなかで必然的、体系的な変化という見方が多く、野田教授もそう考えています。ただ野田教授の場合、「見れる」「見られる」より使いや

すいけれど、「比べれる」より「比べられる」のほうが言いやすい。フォーマルな場面や書きことばで「から」抜きことばを使うのは抵抗があるなど自分のラインを自覚して使うようになります。

「結局、何が正しいかと感情的になるのではなく、人に不快感や悪い印象を与えずにスムーズにコミュニケーションするにはどうすればいいかを考えることが大切なんだと思います。ことばの変化は起きている。私たちはその変化の中にいる。古いほうを正しいと思う人もたくさんいて、フォーマルな場や書きことばで『から』抜きことばを使うと間違っていると思われる、悪い印象を与えることがある。地域差や個人差もある。そういった現状を踏まえてどういつとときに

## 野田春美(のだはるみ)教授 プロフィール

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。博士(文学)。神戸学院大学人文学部教授。専門は日本語学。現在、日本語記述文法研究会の一員として、全7巻に及ぶ参照文法書『現代日本語文法』(くろしお出版)の執筆を進めている。



「ことばを使うかを自分で判断できればいいのではなからうか」  
 敬語についてもいまや変化としてとらえられつつあるのが「出席されますか」のようないくつかの「ことば」。「ことば」を「ことば」謙譲語に尊敬を表す「れる」をつけるのは本来は誤りですが、よく使われています。  
 「とりあえず丁寧なことばを使いたい」と思って使っているのと同じ。実際、敬語の体系がややこしく、誤用を呼ぶ面があると思います。このことばが変化していくものならば、正しいとされてきた尊敬語、謙譲語をみんながずっと使い続ける必要があるのかも問題です。簡略化に向かっていけるならそれも自然な流れではないかと思えます。

ことばを楽しむ生活を豊かに

「ことばを使う上で大切なのは、自分のまわりで使われている表現が全てだと思わず、バリケーションがあることを楽しみながら知ることに」

若者ことばや方言のようにバリケーションがわかりやすいものから、「わからないです」と「わかりません」のような微妙な違いまで、「こんな使い方があった!」「こんな違いがある!」「とおもしろければ、ことばをもっと楽しむことができます。そういう意味では若い世代のほうがことばを楽しむのが上手です。若者に人気のラップ音楽は韻を踏み、話しことばが文字になるメールでは、ペロペロのふにふにことば

を使うかなどをかなり意識しています。ことばには楽しさがある一方でバリケーションを利用してイメージを固定してしまったり怖さもありません。たとえば、博士というキャラクターなら、わしは「じゃ」と話す、ヒールは標準語を使うなどです。「怖さと言えば、最近の日本語ブームも

野田教授おすすめの本

『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』 『敬語再入門』



金水敏 著  
 岩波書店 1,575円(税込)  
 「そうじゃ、わしが博士じゃ」としゃべる博士や「ごめんあそばせ、よろしくつてよ」と言うお嬢様を実際に見たことがありますか。現実には存在しなくても、いかにもそれらしく感じてしまうことばづかい「役割語」。それは何かを探る興味深い本です。



菊地康人 著  
 丸善ライブラリー 882円(税込)  
 正しいかどうかが気になると言えば、やはり「敬語」でしょう。この本は、規範的な「正しさ」だけではなく、現状や歴史もふまえた上で、バランスのいい敬語の使い方を教えてくれます。わかりやすく、かつ深みもあり、お薦めです。

過熱しすぎると怖い面があります。自国語に非常に関心が高まるときは、言い過ぎかもしれませんが、国としてまとまらなげやということが多いです。もっと客観的にことばについておもしろいと思ってもらえればいいですね」  
 人間は言語を使って考え事をしており、



浜崎あゆみと宇多田ヒカルの歌詞はどう違うか?

ことばをおもしろがるネタはいろいろあります

「ことばをどうやっておもしろがればいいのかという悩んでいる人は身の回りのちよつと気になることばに注目してみてください。歌詞、ドラマのセリフ、流行語、広告のキャッチコピーなど、おもしろがるネタはいっぱい。なぜ気になるのかを考えてみると、そのときの自分の心情に触れるものであったり、文法上は誤りだけと逆に目についたり、たくさん発見があります。」

たとえば、野田教授は授業の中で浜崎あゆみと宇多田ヒカルの歌詞を比較。浜崎あゆみは「守るべきもの」というたぐい「べき」を多く使い、宇多田ヒカルは「〜もいい」が比較的多く出てくるのがわかりました。これに対し学生の意見は、今の若者は自由だから「べき」という拘

あらゆるところで言語に関わっています。それだけに自由な発想でおもしろがり、本を読んだり、いろいろな人と接してボキヤラリーや表現を豊かにすれば、毎日がさらに充実するのではないでしょうか。

束的なものにひかれるのではという意見や、拘束よりも許容の宇多田ヒカルがいなどさまざまだったそうです。また、歌詞には、無責任がとまらない「など、話しことばでは使われない表現が登場します。」  
 ドラマのセリフも興味深いもの。友達から恋人へ関係が変わったときにことば使いが変化したり、何かを訴えたいときに「違うよ」など「よ」をたくさん使うなど、話しことばのおもしろさがわかります。  
 その他、雑誌の記事で見られる「神戸な夜」は「神戸の夜」とどう違うのか、流行語に経済や社会の状況を見るなど、アンテナを広げてどんどんチェックしてみてください。ことばの奥深さに感動するはです。

モニター会議開催!

「広報135」への貴重な意見をいただきました

「広報135」では、読者のみなさんの声を反映し、充実した誌面作りを行うため、かねてからモニターを募集していました。その中から3名に、8月18日、神戸学院大学にお集まりいただき、第1回モニター会議を開催しました。

和やかな雰囲気の中、まず毎月郵送している読者に行ったアンケートの結果を報告。その後、自由に意見が交わされ、これまでの感想として、「イラストを見ればすぐに『広報135』とわかって良い」、「文章がわかりやすく、文字の大きさや文章量も適当」、「大学の広告ではなく、知的財産を提供しようという意図がよく表れている」、「4ページだから気軽に読める」、「少ない誌面なのに充実した内容」と好評をいただきました。

今後の展開には、「特集テーマによって、文章を増やし充実させてはどうか」、「色は毎月変わると楽しい」、「読者からの便りを掲載してコミュニ

ケーションを図ってみたいは、」など貴重な意見がたくさん。これらを参考にさらに良い誌面づくりを目指してまいります。どうぞご期待ください。



参加者：  
神戸市西区在住  
吉田健剛さん  
明石市在住  
金子博子さん  
神戸市西区在住  
田中直美さん

自治体別

イベントカレンダー

「広報135」を設置いただいている各自治体の10月中旬～11月中旬までのイベント情報を紹介します。

明石市

明石公園菊花展覧会

10月16日(土)～11月23日(祝)  
大正15年に始まり、今年で76回目を迎える、全国でも有数の長い伝統を持つ菊花展です。愛好家の丹精込めた菊が咲き競います。  
〒県立明石公園( JR・山電明石駅北側 )  
☎078-918-5086( 明石市緑化公園協会 )

伊丹市

バックス万歳 10月24日(日)まで

酒の魅力が引き起こす人間模様と、その悲喜劇を生々しく伝える諷刺版画63点を展示します。料金は300円。月曜休館(祝日は開館、翌日休館)。  
〒伊丹市立美術館( 阪急・JR伊丹駅から徒歩約10分 )  
☎072-772-7447( 伊丹市立美術館 )HP

篠山市

丹波焼陶器まつりと物産市

10月16日(土)・17日(日)  
日本六古窯の1つに数えられる丹波焼をはじめ、丹波篠山の特産品販売が行われる秋恒例の祭り。全窯元の焼き物が一堂に揃う陶器市や、焼き物の原点である「野焼き」を再現するイベントなど丹波の魅力満載です。  
〒丹波伝統工芸公園「立杭 陶の郷」、篠山市今田支所周辺 HP  
☎079-552-6907( 篠山市 産業経済部 商工観光課 )

西脇市

にしわき産業フェスタ2004

10月23日(土)・24日(日)  
播州織バッチワークキルト展、地場産業の播州織や釣針をはじめとする各種企業の展示販売を行います。ブースが約60点出展され、にしわき食の特産品コンテストも開催されます。  
〒西脇市総合市民センター  
☎0795-22-3901  
( 西脇市商工会議所・同フェスタ実行委員会 )

照楓会 11月14日(日)

紅葉の名所として知られる西林寺で行われる恒例行事のひとつ。謡曲や箏曲などを聞きながらお茶席が楽しめる。俳句や短歌、川柳の当日会、手づくり市、子どもスケッチ大会などが行われる。  
〒西林寺境内  
☎0795-22-3111( 西脇市生涯学習課 )

三木市

みき新能 10月22日(金)

三木市で初めて開催される新能。松明の明かり

のなか、演じられる舞台は、なんともし難い幻想的。演目は、狂言「萩大名」と能「船弁慶」です。  
〒県立三木山森林公園( 三木市福井 )  
☎0794-83-8400( 三木市観光協会 )

三木の祭り屋台大集合 10月24日(日)

三木の祭り屋台22基が今回初めて勢ぞろいします。各屋台の勇壮な姿と威勢のよい担ぎ手をぜひご覧ください。  
〒三木山総合公園( 三木市福井 )  
☎0794-89-2312( 三木市企画政策課 )

三木金物まつり2004 11月6日(土)・7日(日)

毎年恒例の「金物展示・直売会」、「金物びっくり市」、「農産物市場」、「丸太切り競争」など、多彩な催しを実施します。また、今年は「市制施行50周年記念ステージ」、「防災工具展」なども行います。  
〒三木市文化会館駐車場ほか( 三木市福井 )  
☎0794-89-2352( 三木市商工観光課 )

紙面の関係で概略のみの掲載になりますので、交通などの詳細は自治体に電話でお問い合わせいただくか各市ホームページ(HP)のマークのあるイベントはホームページに載っています)をご確認ください。各イベント内容は予定で、変更になる場合があります。

投稿募集

「広報135」についてのご意見やご感想等の投稿を募集いたします。住所・氏名・年齢・性別・電話番号・ご職業を明記の上、投稿文章量200文字以内で右記までお送りください。

ファックス:078-974-5904  
郵便:〒651-2180神戸市西区伊川谷町有瀬518  
神戸学院大学企画広報課  
Eメール:kikakubu@j.kobegakuin.ac.jp

次号予告 「広報135」第13号のお知らせ 11月1日に発行の予定です。

わが家の“空気”をきれいに

最近、化学物質過敏症・アレルギー・アトピーなどさまざまな体の不調を引き起こす「シックハウス」が問題となっています。また、除菌機能のある空調機器がヒットしたりと、室内の“空気”に対する注目が高まっています。特に冬場などは室内が閉め切ったままになっているので、ダニやほこり、ペットの毛などでも室内の空気は汚れがちです。そこで、室内の空気をきれいにする方法や掃除のコツ等を通して、室内の“空気”について考えます。

大学祭にお越しください

神戸学院大学の大学祭「135 FESTIVAL」が10月31日(日)～11月2日(火)に開催されます。模擬店やフリーマーケット、ライブ、展示など盛りだくさんの内容です。ぜひお気軽にお越しください。

「気分快晴 ～ 解き放て!!学祭魂～」

ステージスケジュール

- 10月31日(日) オープニングセレモニー  
模擬店紹介「モギたてっ!!食べ歩きまショー」  
キャンパス企画「カラッOK」・演武祭  
キャンパス企画「学院の中心で愛を叫ぶ」  
キャンパス企画「舞台!そうだ!ダンスしよう!」
- 11月1日(月) 放送局企画  
キャンパス企画「輝けっ!!学院の一番星」  
チアリーダーダンス  
ニューハーフショー「魅惑のラビリンス」  
キャンパス企画「な～るほど・ザ・シュワッチ!!」  
音楽団体ライブ
- 11月2日(火) 音楽団体ライブ  
キャンパススペシャル企画「大回転ピンゴンドラ」  
プロライブ(アーティスト未定)

事情により企画の内容を変更する場合があります。近日中に詳細はホームページに掲載しますので、ご確認ください。